



一般財団法人 南西地域産業活性化センター

2023（令和5）年 6月 19日

“南西地域のシンクタンク”

NANSEI SHOTO INDUSTRIAL ADVANCEMENT CENTER

〒900-0015 那覇市久茂地 3-15-9（アルテビル那覇 2F） 電話（098）861-2180

各位

沖縄サッカーキャンプ2023の 市町村別にみた経済波及効果

沖縄県「令和4年度 サッカーキャンプ誘致戦略推進事業
沖縄サッカーキャンプ2023の経済波及効果」より

※お気づきの点、不明な点などがございましたら、ご遠慮なく下記までご連絡ください。

・担当：奥平（上席研究員）

問い合わせ先：電話 098-861-2180（ファクシミリ 098-869-0661）

E-mail okuhira-h@niac.or.jp

報道各社

一般財団法人南西地域産業活性化センター（NIAC、ニアック）において、沖縄県より「沖縄サッカーキャンプ2023の経済波及効果（沖縄県令和4年度サッカーキャンプ誘致戦略推進事業）」に関連する基礎資料を提供いただき、「沖縄サッカーキャンプ2023の市町村別にみた経済波及効果」について取りまとめましたので、その結果について概要を皆様に報告いたします。

一般財団法人南西地域産業活性化センター

会長 大嶺 満

沖縄サッカーキャンプ 2023 の 市町村別にみた経済波及効果

このたび、当財団において、沖縄県（事業実施者 沖縄 S V 株式会社（CEO 高原直泰））が実施しました沖縄県令和 4 年度サッカーキャンプ誘致戦略推進事業（沖縄県委託事業）の経済波及効果について、基礎資料等を提供いただき、市町村別にみた経済波及効果について、試算しました。その結果について報告します。

I サッカーキャンプ全体の経済効果

- ◎ 沖縄サッカーキャンプ 2023 に係る経済効果については、本キャンプを県内で実施することにより生み出される「①キャンプ参加の選手・スタッフによる消費支出」、「②観客（県外）、マスコミ（県外）による消費支出」、「③受入自治体への支出」の 3 項目から試算した。②については、昨年の無観客から有観客となり、経済効果を押し上げる結果となった。
- ◎ サッカーキャンプの経済波及効果は約 20 億 7,736 万円となり、うち県内総生産に相当する粗付加価値額は 6 億 9,657 万円となる。この中で雇用者へ支払われた賃金等である雇用者所得は 3 億 2,476 万円で、雇用誘発効果は約 174 人と見積もられる。
- ◎ 沖縄県内における経済波及効果の総効果は、直接効果の約 1.7 倍と試算される。
- ◎ 前年は観光客による消費効果がゼロだったが、今年是有観客での開催となり、経済効果も大きくなった。経済効果（総効果）は、昨年と比較し 3.7 倍増加している。

単位：百万円

	経済効果 (生産誘発額)	粗付加価値 誘発額		雇用者 誘発数
			雇用者所得 誘発額	
直接効果	1,191.1	250.4	120.4	—
間接 1 次生産誘発効果	719.9	340.0	164.0	—
間接 2 次生産誘発効果	166.2	106.3	40.4	—
総効果	2,077.3	696.6	324.8	174 人
波及効果（波及倍率）	(1.7) = 総合効果/直接効果			
前年（2022 年）の経済効果	559.8	186.1	87.1	47
※対 2023 年比	3.7	3.7	3.7	3.7
2020 年 1 月時の総効果	3,357	1,768	765	318
※対 2023 年比	0.6	0.4	0.4	0.5

■ 令和5年サッカーキャンプの経済波及効果

(1) キャンプ実施クラブ・団体の状況

2023年1月から3月の期間に沖縄県内13市町村で実施されたサッカーキャンプのクラブ・団体は全24チーム（前年17）となった。内訳は国内のJリーグ・クラブチームは、J1が9チーム（前年10）、J2が7チーム（前年10）で、他に、なでしこ・大学が8チーム（前年2）となっている。

キャンプ実施クラブチーム

J1 (9)	J2 (7)	なでしこ、大学等 (8)
北海道コンサドーレ札幌 浦和レッズ FC東京 名古屋グランパス ガンバ大阪 ヴィッセル神戸 川崎フロンターレ 京都サンガF.C. サガン鳥栖	ベガルタ仙台 水戸ホーリーホック ザスパクサツ群馬 ジェフユナイテッド市原 FC町田ゼルビア 大宮アルディージャ V・ファーレン長崎	浦和レッズレディース 大宮アルディージャ VENTUS FCふじざくら山梨 慶應義塾大学男子サッカー部 城西国際大学サッカー部 札幌大学サッカー部 慶應義塾女子サッカー部 日本体育大学

(2) キャンプ参加者、観客、マスコミの人数

① 選手・スタッフ

今年のキャンプ参加人数は、全参加チームの選手・スタッフ合わせて延べ人数で約 1,163 人となり、前年度の895人を268人上回った（前年度の129%）。平均宿泊日数は 11.8 泊 13.0 日で、総人泊数（チーム別人数×宿泊日数の合計）は12,870人泊となった。

② 観客数

2023年1月は、新型コロナウイルス感染症の影響が和らいできており、国内移動の規制について緩和されたことから、徐々に観光客が戻りつつある。本調査においては、サッカーキャンプの行われているグラウンドに訪れた来場者数の総数を、概ね48,365とし、そのうち県外からの観客数をレンタカーの台数を基に推計した結果、概ね7,030人を県外からの来場者数と見積もった。

(3) 直接支出額の総計

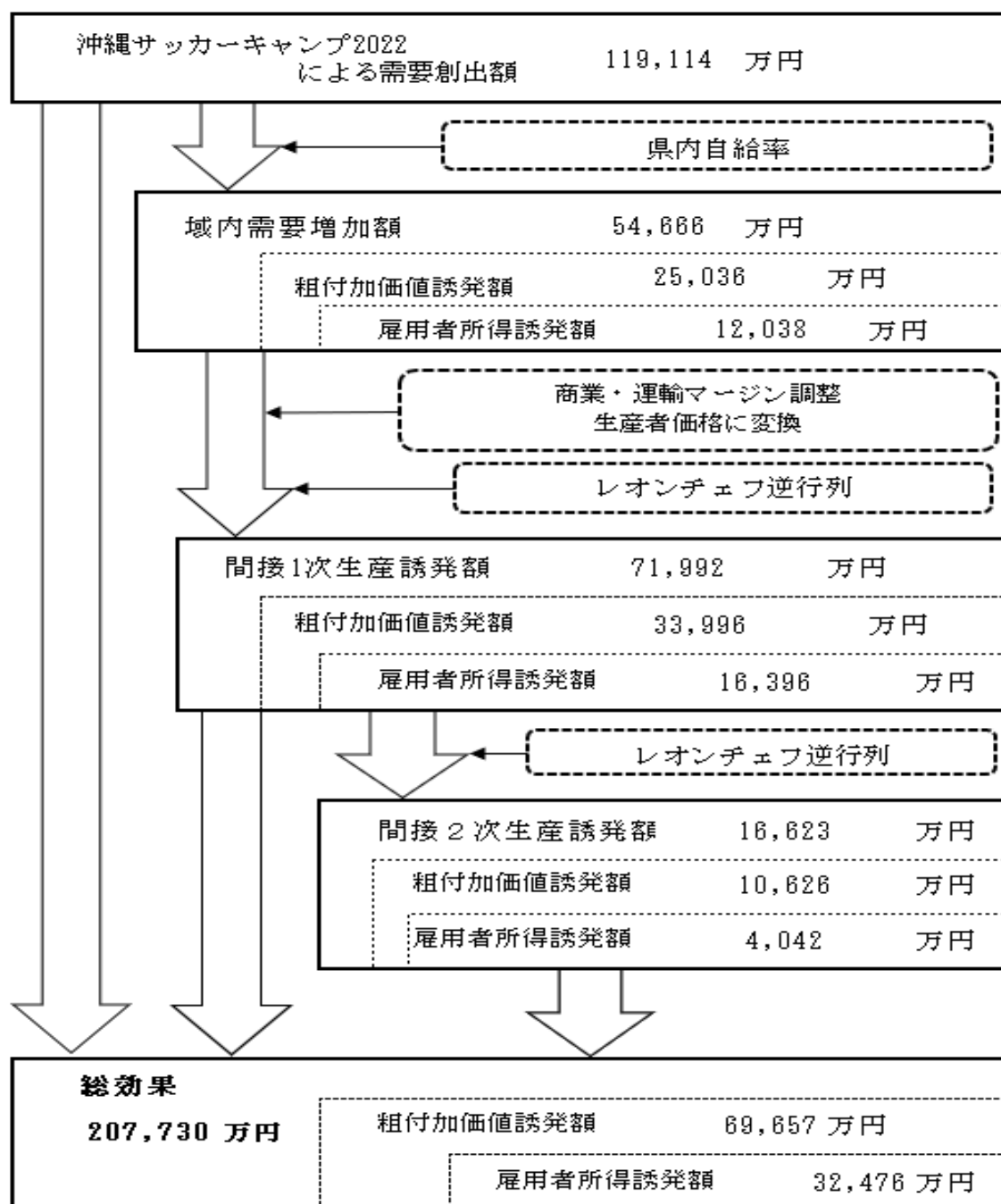
サッカーキャンプに係る直接支出額の総計は、11億9,114万円となり、その内訳は以下の通りである。

単位：万円

項目	金額	内訳
球団経費及び選手・スタッフによる支出	53,969	キャンプ経費（宿泊費、交通費、飲食費）、その他の消費（選手・スタッフ個人消費）
観客、マスコミの消費支出	64,363	宿泊費、交通費、飲食費、土産・買物費、娯楽・入場費
施設費等その他球団経費	782	施設使用料等
合計	119,114	

(3) 直接効果から総効果までの経済波及効果の総括

図 沖縄サッカーキャンプ 2022 の経済波及効果総括図



II 市町村別にみた経済波及効果の推計結果

経済波及効果は沖縄県全域に及ぶが、そのうち、サッカーキャンプ誘致戦略推進事業の受入市町村の経済波及効果について推計した。サッカーをキャンプ受入している 13 市町村の生産誘発額の合計である総効果は 15 億 1,291 万円で、県全体の誘発効果に対して 72.9%の経済効果が分配されている。受け入れ市町村への効果をみると金武町の直接効果 2 億 2,507 億円、総効果 2 億 3,252 万円が最も大きく、周辺設備の整備効果が発揮されたもので、練習環境の良さなどから、J1 の 2 チームの他、なでしこ・大学等 4 チームの計 6 チームの利用となっている。新型コロナウイルス感染症の規制も緩和されつつあることから、次年度以降の事業では石垣市や久米島町など離島部での開催が期待される。

図 市町村別経済波及効果（生産誘発額総効果）

